

授業科目名	動物行動学Ⅰ	科目コード	2303007		
開講クラス	動物健康管理学科	コース	動物園・水族館・ドッグ インストラクターコース	学 年	1 年
担当教員	下園武志				
	実務経験教員（有・ <input type="checkbox"/> 無） 実務経験内容				
開講時期	前期・後期・ <input type="checkbox"/> 通年・特別講義・その他		授業コマ数	31 時間	
	<input type="checkbox"/> 必須・選択・選択必須		単 位 数	1 単位	
使 用 テキスト1	書 名	愛玩動物看護師の教科書 第2巻			
	著 者	緑書房編集部 編			
	出版社	株式会社 緑書房			
使 用 テキスト2	書 名	室内犬の飼い方・しつけ・お手入れのすべて			
	著 者	矢崎潤			
	出版社	ナツメ社			
参考図書					
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義・演習・実習				
<p><授業の目的・目標></p> <p>人間に最も身近な動物である犬と猫を中心に、何故その行動を取るようになったのか、どのような仕組みでその行動を取っているのか等を学習していく。また、この科目で身に付けた知識を「ドッグトレーニング実習」での犬のトレーニングにも応用・発展させていく。</p>					
<p><授業の概要・授業方針></p> <p>主に犬と猫について扱う。犬や猫が長い歴史の中で人間とどの様に関わってきたか、一生をどの様に過ごし成長していくのか、他個体とどの様にコミュニケーションを取り、どの様な時にどの様な行動を取るのか等を学ぶ。また、講義で学んだ内容を、映像を見たり犬や猫を実際に観察したりすることで確認する。</p>					
<p><成績基準・評価基準></p> <p>前期と後期に優・良・可・不可の成績基準を設定する。評価の基準は筆記試験によるものとし、本科目の出席率が80%以上なければ本試験が受験できない。本試験における点数が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とし、60点未満は追試とする。また、出席率が80%未満の場合も追試となり、追試においては60～100点を可とする。追試にて60点未満の場合は不可となる。</p>					
<p><使用問題集・注意事項></p>					
<p><関連科目他></p>					

授業科目名		動物行動学Ⅰ	
回	授業内容	備考	
1	科目説明		
2	犬と猫の欲求について		
3	学習の仕組みの基礎		
4	効果的なほめ方・ごほうびの与え方		
5	犬を叱ることについて		
6	暮らしに役立つトレーニング・トレーニングのポイント		
7	より効果的にトレーニングするために心がけること		
8	基礎的なオビディエンストレーニングについて		
9	基礎的なオビディエンストレーニングについて		
10	犬の入手・社会化とその説明		
11	犬の入手・社会化とワクチン接種の関係		
12	犬種について		
13	犬種について		
14	猫種について		
15	前期まとめ		
16	動物行動学の基礎		
17	動物の家畜化		
18	犬と猫の起源と歴史		
19	行動の発現と機序		
20	行動の発達		
21	コミュニケーション		
22	行動の機能（個体維持行動）		
23	行動の機能（社会維持行動）		
24	行動の機能（性行動・失宜行動）		
25	学習理論：行動とは・馴化・感作と脱感作		
26	学習理論：古典的条件付けとオペラント条件付け		
27	学習理論：古典的条件付けとオペラント条件付け		
28	学習理論：古典的条件付けとオペラント条件付け		
29	学習理論：三項随伴性		
30	学習理論：その他		
31	後期まとめ		